

少年の主張 「最優秀賞」

勇気を出して 後藤 理子



「ハイ。」そう言って勇気を出して、手を挙げて、私は生徒会長になりました。しかし以前は、人前で堂々と話すことができる性格ではありませんでした。

私が小学生の時です。授業中の全員挙手にこだわる先生がいました。それは私にとって苦痛でした。授業中はいつも、先生と目を合わせないように、前の席の子の背中に隠れるように座っていました。それでも指名されて…。「理子さん。」その一言を聞くだけで、ドキッとしました。発表するために前に立つと、みんながこちらに注目します。するとまた、心臓がドキッと大きく鳴るのです。「間違っていたらどうしよう。」そんな思いが私の頭の中をいっぱいにしました。

そんなある日、私は一冊の本に出会いました。自分に自信のない女の子が、少しずつ成長し、自分の気持ちを伝えられるようになるという話でした。まるで、自分みたいだと思いました。私も自分を変えたい。そんな思いがめばえた頃に、あの先生に呼ばれました。先生は笑顔で「大丈夫。」と言ってくれました。まるですべてわかっているかのように。

その日から私は少しずつ勇気が出せるようになりました。発表すると、先生は笑顔で聞いてくれます。すると、ほっとして、発表して良かったと思えるようになりました。私が今、多くのことに挑戦できているのは、あの先生のおかげです。

私の学校では、仲間の輝く姿を紹介するかが

やきカード、全校全員が安心して過ごせるよう意見を交流するいじめサミットなどを続けていきます。生徒会長として、その活動に関わるなかで、視野が広がり、学校のことでなく、社会のことにも関心をもつようになりました。

そんな時、熊本県で地震が起きました。今までの私だったら、ただニュースを見て、「地震があったんだ。」そう思うだけだったでしょう。被災した中学生の子が、地域の人のためにボランティアをしているのを、ニュースで見ました。「私にも何かできることはないだろうか。」「募金活動なら被災者の方々を助けることができる。」そう思い、まわりのみんなに声をかけました。しかし実際に募金活動をすると、生徒だけではなく、普段なかなか関わる機会のない保護者の方や、地域の方にも協力していただくことができました。私のそばには、支えてくれるたくさんの人たちがいるのです。

私の祖父の口癖は「何かに迷ったときは、楽な道より大変な道を選べ」です。この言葉の意味を、私は今ならよくわかります。小学校の時に勇気を出して良かった。それが今の私の行動力につながっているのです。みなさんも嫌なことや、大変そうだと思うことも、少しの勇気を出して挑戦してみてください。必ず、必ず何かを得ることができる私は信じています。何かに迷ったとき、ほんの少しの勇気を出して挑戦できる。そんな人に、私はなりたい。

最優秀賞：後藤理子 「勇気を出して」

優秀賞：大澤優衣 「災害と命」

優秀賞：各務真央 「八百津町の誇り」

優秀賞：川合 愛 「無知」

優秀賞：伊藤 希 「日々大切さ」

優秀賞：大坪未桜 「大切にしたい福祉の心」

西野壮哉 「一度失った希望と、変わった人生」

矢澤歩華 「夢を目指して変わった私」

八百津中学校3年

八百津中学校3年

八百津中学校3年

八百津中学校3年

八百津東部中学校3年

八百津東部中学校3年

八百津高等学校3年

八百津高等学校2年

【敬称略】